

第2回 岐阜市地域福祉推進委員会 議事録

1. 開催日時

令和元年 7月 30日 (火) 10:00～11:30

2. 開催場所

岐阜市役所本庁舎低層部 4階 全員協議会室

3. 出席委員 (13名)

公募委員

中部学院大学

岐阜市身体障害者福祉協会

岐阜市自治会連絡協議会

岐阜市青少年育成市民会議

岐阜市介護支援専門員連絡協議会

岐阜市社会福祉協議会

岐阜市老人クラブ連合会

岐阜市民生委員・児童委員協議会

特定非営利活動法人コミュニティサポートスクエア

公募委員

岐阜県社会福祉士会

岐阜市赤十字奉仕団

青山 知子

飯尾 良英

五十川 勝也

井上 いほり

江原 由美子

郷 春子

後藤 東洋士

篠田 孝

篠田 洋子

杉浦 陽之助

福島 洋子

吉田 麻美

鱈部 昌子

(五十音順、敬称略)

4. 欠席委員 (2名)

岐阜市小中学校長会

岐阜市医師会

阿谷 亘

梅田 哲正

(五十音順、敬称略)

5. 議事次第

1 開会

2 議事

(1) 次期地域福祉推進計画の骨子案について

3 報告

(1) 芥見地区における取組事例について

4 閉会

6. 議事要旨

1 開会	
事務局	(事務局あいさつ)
委員長	(委員長あいさつ)
2 議事	
(1) 次期地域福祉推進計画の骨子案について	
委員長	・ それでは、議事を進めていきたいと思います。「次期地域福祉推進計画の骨子案について」です。事務局から説明をお願い致します。
事務局	(資料説明：資料1 次期地域福祉推進計画の骨子案について)
委員長	・ 30分にわたり長時間聞いていただきましたが、幅広く計画の骨子を作って頂きました。どこからでも結構ですので、お気づきになったところのご意見やご質問を自由にいただきたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明の中で、実際に今取り組んでいる内容と、まだこれから実施予定の部分がはっきり分かりませんでした。 ・ 例えば私が関わっていることで言いますと、資料の12ページにおいて、ふれあい・いきいきサロンは前からやられていると思います。一方、その下にある将来に突き進む力を育む支援の中で、寄り添い型学習支援等事業の実施とありますが、私はこれに実際に携わっているの、3年ほどこういった事業が動いているということはわかっていますが、初めて聞かれる方もいると思います。そうしたことから、どこにどう意見を出していけば良いのかということがちょっとわかりづらい点があると思います。すでにやられていることであれば、さらに推進していく、これは新たに実施するなど、わかりやすくしていただきたいです。 ・ 資料の15ページになりますが、課題の1つ目にあるモータリゼーションの進展とありますが、それに対しての主な取り組みでの解消の想定が記載されていないように思われます。
委員長	・ 今の買い物支援のところ、ここでその具体的なものが特に記述がないということですが、他に何か関係するところがあるというのは、どういうことですか。
委員	・ このページではつながりは出ていないかもしれませんが、どこかのページにその課題に対しての取り組みにつながるようなことがどこかにあるのかなと思いました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議前に私の方から資料を出させていただきました。 ・ 1つは、私たちの障がい者の団体が出していますが、岐阜身障だよりというものを平成31年3月31日に出させて頂いて、委員の皆さんに配付させていただきました。障がいのある方の団体として、こうしたものを年2回発行していきまして、その中に岐阜市の身体障害者相談員人口というものが入っております。14ページに身近な相談窓口の充実ということで、市がやることということで、障害福祉サービスの利用、就学、就職等、関係機関との連携を図る身体・知的障害者相談員を配置ということがあります。身体障害者の相談員が、岐阜市全体で70人います。なかなか市民の方には、身体・知的障害者相談員がどこにいるのか見えないということがあると思います。ネットや障害者の援護のしおりを見れば載っていますが、こういった面でのPRをもう少しお願いしたいです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・また、もうひとつお配りしたヘルプマークは、岐阜県が平成 28 年から開始しており、ヘルプマークを付けている人がいたら、お声かけや公共交通機関での席の交替などの目印となります。これについても PR が必要となりますが、実際、一般の人たちがどれだけ理解をして、このマークを見たときに動いてくれるのかということが少ない気がしています。したがって、県としてはこれを発行して、市民の方に身近なコミュニティセンターや自治公民館で展示されていますが、いずれは、倉庫の中に行き、何年か後にはそのまま廃棄処分になるのではないかと危惧しています。こうしたものが効果的、効率的に皆さんに理解いただけるよう、作るだけではなくて、PR する仕組みを作って頂けるとありがたいと考え、この 2 点の資料で出させて頂きました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど委員からも出たように、どこまでが達成できて、今後どう具体的に動いていくのかということが、この骨子案の中に見えてこないのが、非常に残念です。 ・1-②の出会いと学びの講座というところと、2-①の孤立を防ぐ場づくりというところと教育的なところでも、どうつながっていくのかというところを具体的に示して頂けると、この骨子案がつながっていくと思います。市民からのパブリックコメントを求めるのであれば、丁寧に表示された方が、良いのではないかと思います。こういった場所で確認できる方たちばかりではないので、そのことはお願いしたいと思います。 ・全体的に具体性に欠けます。骨子案なので、具体性はこれから作っていくのかもしれませんが、具体性に欠けていくというところで、想像しにくい骨子案になっているなと思います。こんなものだと思えばそうなのかもしれませんが、市民一人ひとりが少し考えてみよう、わが事として考えてみようというものを作り上げていくことが役割の 1 つだと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き委員の皆さんからご意見を頂きたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・11 ページの子育て世帯への取り組みの市社協の部分で、福祉施設との連携により、ひとり親家庭の子どもに学習習慣や交流体験を通してと書いてあります。これは言い回しの表現の取り方にもよると思いますが、学習習慣というのは自分でつけることであって、支援をされたことと体験を通じてというような流れではないでしょうか。言い回し的な部分で申し訳ないですが、学習習慣は自分で作るものであって、学習支援と交流体験の中で社会性、自主性を作るものではないのでしょうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は、学習習慣という言葉正しい表現に修正してください。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、引きこもりの人が問題になっていますけれども、その実態というのは必ずしも全体を把握されてはいないと思いますが、そういう人に対しての支援なども考えられているのでしょうか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのご意見のように一番大事なのは、情報をいかに共有していくかということだと思います。一般の皆さんが色々な良い施策があったとしても、それをわが事のように使いこなすには、まずは情報です。その情報をいかに末端まで届けていくかということが一番大事なことだと思います。それをどのように活用していくかということが地域やそれぞれの役割だと思います。その情報公開、届け方をもう少し具体的に考えて頂いた方が良いと思います。 ・家庭と地域ということは載っていますが、縦割りの福祉サービスというものが問題になっていますので、前回もご意見が出ていたみたいですが、学校というもの、地域には学校は欠かせないと思います。これは5年計画なので子どもたちが今、小学生にしても5年後だと十分大きくなっています。そういう人たちが次世代の担い手となってもらえるように、いかにその子たちを施策に対して取り込んでいくか。そうすれば、その子たちのご両親なども施策に注目されると思います。 ・例えば、献血も子どもを相手に色々なイベントをやりますと必ず親が付いていらして、そちらの啓発につながるということが、データで分かっています。子どももすごい力を持っているということが、防災などでAEDなどは子どもから親に伝わると言われています。そういった子どもの力を利用した、子どもも主体となるような部分が出てきたら良いなと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・15 ページのところ、成年後見制度というものが入ってしまっていて、認知症の方が世の中にこれだけ多くなってきて、8050 問題などということもあります。親が若い間はご家族でカバーしていらっしゃった方が、親が高齢になり、認知症になり、子どもさんが障がいがあるなどして、引きこもりや後見人などの制度を使わなければ、自分では生活をしていけないという人たちが多く出てきているという問題があります。こういったことがすべて、1つの問題が多岐にわたって色々な所で引っかかってくると思います。 ・この成年後見制度というものの活用や利用というものも実際は少なく、なかなか活用されていないということが現状だと思います。日常生活自立支援事業というものの前段で社協が取り組んで下さっているとは思いますが、人材不足、人数が足りないために受けて頂けないという現状があるので、こういったことも考えて頂けると良いのではないかと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・12 ページの高齢者大学というものは、大学と書いてあるので何年か行くのですか。行った結果、何か知識、教養を深める、深めた結果どうするために作られるのかということが1つ疑問です。 ・例えば、居場所を作るということを考えたら、社協でやられている、いきいきサロンなどでも介護も身近なところでやられているので、行きやすく、そういったところで、知識を深めることをやったとしてもたぶん同じような気がします。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど子どもの参加が大事だというお話がありましたけれども、私の青少年育成市民会議でも常々ボランティアの募集や、子どもが地域の活動に参加できるように様々な事業に協力させていただいています。今までは中学生のボランティアが多かったですが、最近は小学生も参加してもらっている地域も多く、小学生ができることを考えることや中学生が小学生についてあげるなどしています。地域に参加する子どもが増えてきているので、将来この地域に携わっていく子どもが、大きくなっても参加できるようなところを考えなくてはいけないということが課題です。 ・高校進学や大学進学で地域から出てしまいます。なかなか地域でできることがないのですが、成人式などで戻ってきたときに、地域で色々あるということを伝えて、将来地域で貢献してほしいということを伝える活動などもしています。これからそういう活動を増やしていき、将来福祉に関わる地域のボランティアなどに携わる子どもが増えていけば良いと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのところで事務局の方からお答えできることがありましたら、お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・やっていることとやっていないことが、わかりづらいということにつきましては計画策定までにその辺りをしっかりと出るようにすることと、新規でやることにつきましては、予算の関係もありまして、明確に書けない部分もありますので、タイミングを見て、現在やっているものとやっていないものを分かりやすくさせていただきたいと考えています。また 15 ページのモータリゼーションの進展、買い物支援の部分が資料から抜け落ちていましたので、修正させていただきたいと考えています。 ・啓発、PR という観点は、順次進めさせていただきたいと思います。また、公民館の方にヘルプマークが残った状態で、活用されていないというお話をいただきましたので、再度見直しをさせていただきたいと思います。 ・前回のものとどう違うのかというご意見につきましては、本計画からは最上位計画ということで、前回までは縦割りの部分で、それぞれの課でやるということになっておりました。しかし、上位計画ということで、その辺りを貫くということで、一新させていただいているところがあります。そうした中で、社会情勢等を踏まえ、現在の状況とあった計画にしていきたいと考えています。 ・引きこもりへの支援という観点はある、重点施策の中で、8050 問題などの複合的な問題をとりあげています。80 歳の高齢者と 50 歳の障がいのある子どもがいるケースが非常に課題をなっています。80 歳の方は高齢福祉課、もしくは地域包括センターの方で対応しています。それに対しまして、50 歳の方はどこに行くのかという課題があります。こうした課題に対して、岐阜市で対応できるような体制を、次回の重点施策として改めてご説明させていただきたいと思います。 ・学校とのコラボという観点につきましては、学校の方と無理のない形で、連携について検討できればと考えています。 ・成年後見制度の活用という観点につきましては、現在成年後見制度の中間機関となるものの立ち上げに向けて取り組んでいる点について、わかりやすく計画に盛り込んでいきたいと思っています。

	<ul style="list-style-type: none">・高齢者大学につきましては、全部で5日間の講座を開催しています。高齢者の生きがいをづくりの一環として、歴史を学んでいただくなどの講座を開催しています。ここで学んだ方たちがその後どのように、社会に還元していくのかなどの観点までは、まだ明確に実施してもらうようにはしていませんが、三世代交流やそういう場で、ご活躍していただいているという事例も聞いています。
--	--

3 報告	
(1) 芥見地区における取組事例について	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次の報告に移りたいと思います。芥見地区における取組事例についてということで、お願いします。
副委員長	(取組事例説明：資料2 芥見地区における取組事例について)
委員	(追加報告①：認知症 DVD について)
委員	(追加報告②：大人も子どもも来られる食堂について)
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、今回ご報告いただいたような事例が広がっていけば良いと思います。 ・次回は、特に重点事業として、8050 問題など地域の中で複合的に色々と問題を抱えている方々に対する支援をどのようにやっていくのかという観点でご検討いただきます。岐阜市は、行政機関として非常に大きな組織ですので、縦割りといいますか、複合的な課題に総合的に対応することが難しいのではないかと思います。そういったあたりをこれからどうやって克服できるのか、総合的に、複合的な問題に対応していけるのかというあたりを検討していただきたいと思います。 ・また、今回ご報告いただいた事例のように、住民の福祉活動、地域の方々の活動をより活発に引き出していくためにどういう仕掛けがこれから必要なのかというところだと思います。 ・こうした観点について、委員の皆さんには事前に準備いただき、参加いただければと思います。
4 閉会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたり、貴重なご意見や資料提供等、皆様にご協力いただきありがとうございました。 ・次回の委員会は、8月30日（金）の13時30分から、会場は、これまでと違い、消防本部6階の大会議室を予定しております。 ・それでは、以上をもちまして、本日の地域福祉推進委員会は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

－ 以上 －